

日印国交樹立 60 周年記念

横浜ユーラシア文化館特別展「華麗なるインド神話の世界」関連企画

パネル展示

横浜におけるインド人のあゆみ

会場：横浜ユーラシア文化館 1 階 **入場無料**

主催：横浜開港資料館・横浜ユーラシア文化館

期間：2012年10月6日(土)～2013年1月14日(月)

休館日：月曜日(10/8、12/24を除く)、10/9、12/25、12/28～1/3

開館時間：9:30～17:00(16:30までに入館)

今年には1952年に日本とインドが平和条約を締結し、国交樹立してから60年となりますが、横浜とインドとのつながりはさらに古く、幕末まで遡ります。

横浜が港を開いて、国際貿易港となると、諸外国の人びととともに、インド人もやってきました。1893年にムンバイと横浜の間に航路が開かれると、多くのインド商人がこの地を訪れます。横浜でのインド人の仕事は、おもに日本産の絹織物をインドや他の地域に輸出することでした。その後、関東大震災、第二次世界大戦という災害や戦争に見舞われますが、そのたびに横浜の人びとはインド人の横浜復帰を強く願い、インド人もそれに答えました。1965年には横浜市とムンバイ市が姉妹都市提携をむすび、日印の友好交流を発展させています。

貿易都市横浜の繁栄をささえたインド商人たち。その姿については、これまで多くは語られてきませんでした。国交樹立60年の節目の年に、一世紀半近くにおよぶその歩みを振り返ります。

- 1 インド人の横浜進出
- 2 インド商人の活躍
- 3 関東大震災とインド水塔
- 4 インド人クラブ
- 5 日印国交樹立とインド商人の復帰
- 6 横浜市とムンバイ市の交流
- 7 インド人ゆかりの建物



インドクラブとそのメンバー 1940年 (南サタニー保険代理店蔵)



ナチャーマル商会の前で 1956年
チャンドル・G・アドバニ氏蔵



ムンバイ市からの象の寄贈式 1985年 横浜市提供